

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月3日

上場会社名 株式会社 サンゲツ
 コード番号 8130 URL <https://www.sangetsu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 安田 正介
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 助川 達夫 TEL 052-564-3333
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	106,939	△10.6	4,447	△32.2	4,848	△30.8	3,446	△31.3
2020年3月期第3四半期	119,610	1.5	6,556	58.6	7,001	45.5	5,013	52.8

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 3,696百万円 (△17.3%) 2020年3月期第3四半期 4,469百万円 (71.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	56.90	56.86
2020年3月期第3四半期	82.35	82.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	155,551	94,316	60.1
2020年3月期	164,101	94,217	56.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 93,455百万円 2020年3月期 93,244百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	28.50	—	29.00	57.50
2021年3月期	—	29.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	29.00	58.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	144,000	△10.7	6,000	△35.3	6,500	△34.0	4,500	214.2	74.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2021年2月3日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	61,150,000株	2020年3月期	61,750,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	633,402株	2020年3月期	1,184,644株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	60,578,514株	2020年3月期3Q	60,882,411株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年4月1日～12月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、厳しい状況が継続しました。5月末の緊急事態宣言解除後は、経済活動の再開により、輸出や生産の一部に持ち直しの動きも見られましたが、感染者数は再び増加に転じており、先行きは極めて不透明です。当社事業に関連の深い建設市場においては、新型コロナウイルス感染症により、郊外での戸建住宅に堅調な動きが見られる一方、宿泊施設・店舗等の非住宅物件の改装需要が大きく低迷するなど、事業環境は予断を許さない状況です。

このような環境下で、当社グループは、お客様及び従業員の安全を第一に、テレワークの推進や事務所内分散勤務、マスク着用・消毒の徹底等の感染拡大防止策を講じ、事業活動の継続と商品の安定供給に努めるとともに、オンラインによる抗ウイルス商品セミナーの開催やWEBサイトによる商品情報提供の拡充といった、ウィズコロナに対応した営業活動の展開に努めました。また、2021年1月5日に稼働開始した新関西ロジスティクスセンターの開設準備や、東南アジアにおける営業拠点の再編など、中期経営計画(2020-2022)[D.C.2022]に基づく施策を着実に実行しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高106,939百万円(前年同期比10.6%減)、営業利益4,447百万円(同32.2%減)、経常利益4,848百万円(同30.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,446百万円(同31.3%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを以下のとおり4区分に変更し、前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(インテリアセグメント)

壁装事業では、2020年6月に発売した住宅向け壁紙の見本帳「リザーブ」の市場浸透が進みました。また、当第3四半期連結会計期間には住宅やマンションリフォーム市場が若干の回復を見せ、リフォーム向け壁紙を収録した見本帳「リフォームセレクション」の売上が好調に推移しました。一方、非住宅市場においては、商品バリエーションや機能を拡充したガラスフィルム見本帳「CLEAS」が市場の評価を得て、売上を伸ばしました。しかしながら、依然として新型コロナウイルス感染症による市場への影響は続いており、壁装材の売上高は41,328百万円(前年同期比7.8%減)となりました。

床材事業では、住宅リフォームにも使われる「フロアタイル」の売上が堅調に推移したほか、非住宅向け床材を中心に収録した見本帳「Sフロア」や、マンション共用部等に使用される防滑性ビニル床シート「ノンスキッド」、「ロールカーペット」など、多数の見本帳を発刊し、販促活動に努めました。特に「Sフロア」においては、抗ウイルス商品に対するニーズの高まりから、医療施設をはじめ官公庁・教育施設などでの採用が進みました。また、家庭用カーペットタイル「スタイルキット」が、巣ごもり需要を捉え売上を伸ばしました。その一方で、宿泊・商業分野での需要減少等が影響し、床材の売上高は30,011百万円(同8.8%減)となりました。

ファブリック事業では、機能性商品の拡充や市場のニーズに沿った商品開発により、抗ウイルスや制菌機能を持つ商品等を収録した各種施設向け見本帳「コントラクトカーテン」の売上が伸長しました。医療施設物件においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止策への助成金・補助金施策も、衛生的な空間づくりに役立つカーテンへの吊り替え需要を後押ししました。また、住宅向けカーテン見本帳「AC」の売上が引き続き堅調に推移したほか、厳しい状況が続く非住宅市

場においては、椅子生地見本帳「UP」が、無地ビニルレザーや高付加価値商品「アクアクリーン」を中心に売上を伸ばしました。しかしながら、依然として市場環境は十分な回復に至っておらず、カーテンと椅子生地をあわせたファブリックの売上高は5,671百万円(同9.4%減)となりました。

これらのほか、施工費や接着剤等を含むその他の売上5,015百万円(同22.8%減)を加え、インテリアセグメントにおける売上高は82,027百万円(同9.4%減)、営業利益は4,698百万円(同29.1%減)となりました。

(エクステリアセグメント)

エクステリアセグメントを担う株式会社サングリーンにおいては、市場環境全体の低迷が続く中、主力商材のフェンス、門扉、カーポートの売上が減少しました。その一方、巣ごもり需要の拡大により、ポスト、物置、テラス、ウッドデッキの販売が堅調に推移したほか、ホームセンターやEC販売店等を通じた売上が伸長しました。また厳しい経営環境が続く中、中期経営計画に基づく施策として、管理システムを通じた配送体制の効率化や専門性を高める人材育成、新規顧客の獲得等に取り組みました。

この結果、エクステリアセグメントの売上高は11,024百万円(前年同期比9.9%減)、営業利益は346百万円(同32.8%減)となりました。

(海外セグメント)

海外セグメントでは、海外関係会社の2020年1月から9月までの実績を、第3四半期連結累計期間の業績に算入しております。

北米市場を担うKoroseal Interior Products Holdings, Inc.においては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、建設市場の縮小や工場の稼働にも影響が及ぶなど、厳しい状況となる中、新規壁紙生産設備の稼働による品質と生産性の向上に継続的に努めました。また、主要市場であるホスピタリティ市場以外への活動強化により、レジデンシャルや教育施設への採用が進んだほか、従来から拡販に取り組んでいたサンゲツの粘着剤付き化粧フィルム「リアテック」においては、工期の短縮化やコスト削減、環境への配慮といったニーズを捉え、売上が伸長しました。

中国市場を担う山月堂(上海)装飾有限公司においては、中国市場は全体として回復傾向にあり、営業活動の再開が進んでおります。しかしながら、建設工事の延期や出張の制限が発生するなど、依然として新型コロナウイルス感染症拡大前の状況には至っておりません。このような中、カーテンやカーペットタイルといった取り扱いエレメントの拡充や顧客の開拓に加え、グループ全体を通じた中国事業の組織再編成に向けた準備を進めました。

東南アジア市場を担うGoodrich Global Holdings Pte., Ltd.においては、東南アジア各国で状況が大きく異なり、非常に不透明な経営環境となる中、人やモノの移動に制限がかかり、事業活動にも大きな影響を与えております。このような状況下でも、オンラインを活用した販促活動に努めたほか、11月には、Sangetsu Goodrich (Thailand) Co., Ltd.の営業を開始する等、各国の市場に合わせた拠点体制や営業体制の強化やコスト削減を進め、より効率的な経営体制の構築に向けた見直しを行いました。

これらの結果、海外セグメントにおける売上高は11,289百万円(前年同期比23.7%減)、営業損失は695百万円(前年同期は営業損失693百万円)となりました。

(スペースクリエーションセグメント)

第1四半期連結会計期間より新たなセグメントに加わったスペースクリエーションセグメントは、内装仕上工事業を担うフェアートン株式会社と、当社のスペースクリエーション事業部で構成しています。

フェアートン株式会社においては、非住宅の新築内装仕上事業への新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であり、ほぼ計画通りの進捗となりました。一方、市況の影響を受けやすい改修工事業においては、10月以降、経済活動の回復に伴い工事着工数も回復の兆しが見えましたが、12月以降は新型コロナウイルス感染症が再拡大し、工事量は減少しました。

当社のスペースクリエーション事業部においても、事業のメインターゲットの一つであるオフィス、ホテルの改修市場は厳しい状況が継続しており、営業活動の抑制や改修工事の中止といった影響を受けました。その一方、働き方改革・オフィスの見直しに伴う新たな需要等もあり、新規案件の獲得に向けた営業活動の積極化や、顧客の開拓、人材の強化に努めました。

この結果、スペースクリエーションセグメントの売上高は3,562百万円(前年同期比33.4%増)、営業利益は114百万円(同21.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前期末に比べて8,550百万円減少し、155,551百万円となりました。また純資産は、前期末に比べて99百万円増加し94,316百万円となり、自己資本比率は60.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績の動向を踏まえ、2020年11月2日に公表しました2021年3月期の通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,756	27,807
受取手形及び売掛金	34,751	29,255
電子記録債権	12,318	14,854
有価証券	4,125	424
商品及び製品	15,083	15,413
仕掛品	481	237
原材料及び貯蔵品	1,938	2,402
その他	1,616	1,462
貸倒引当金	△481	△441
流動資産合計	100,591	91,415
固定資産		
有形固定資産		
土地	19,418	19,418
その他(純額)	16,254	16,927
有形固定資産合計	35,673	36,345
無形固定資産		
ソフトウェア	2,647	2,479
のれん	40	34
商標権	5,797	5,597
その他	747	677
無形固定資産合計	9,233	8,789
投資その他の資産		
投資有価証券	10,222	10,808
長期貸付金	10	10
繰延税金資産	4,938	4,702
その他	3,481	3,603
貸倒引当金	△49	△122
投資その他の資産合計	18,603	19,000
固定資産合計	63,509	64,136
資産合計	164,101	155,551

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,235	11,343
電子記録債務	13,583	13,373
短期借入金	1,457	1,195
1年内返済予定の長期借入金	11,383	103
リース債務	180	117
未払法人税等	2,283	217
賞与引当金	1,960	1,096
役員賞与引当金	—	25
製品保証引当金	663	573
資産除去債務	28	28
その他	6,925	7,420
流動負債合計	50,701	35,494
固定負債		
長期借入金	7,638	14,210
リース債務	144	125
繰延税金負債	1,878	1,784
役員退職慰労引当金	28	32
退職給付に係る負債	8,183	8,044
資産除去債務	630	634
長期未払金	2	2
その他	676	906
固定負債合計	19,182	25,740
負債合計	69,883	61,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,616	13,616
資本剰余金	20,000	20,000
利益剰余金	62,853	61,534
自己株式	△2,440	△1,263
株主資本合計	94,028	93,887
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	492	919
繰延ヘッジ損益	22	9
為替換算調整勘定	204	△59
退職給付に係る調整累計額	△1,503	△1,301
その他の包括利益累計額合計	△784	△431
新株予約権	83	76
非支配株主持分	889	784
純資産合計	94,217	94,316
負債純資産合計	164,101	155,551

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	119,610	106,939
売上原価	80,286	71,859
売上総利益	39,324	35,079
販売費及び一般管理費	32,767	30,631
営業利益	6,556	4,447
営業外収益		
受取利息	2	23
受取配当金	135	129
不動産賃貸料	19	22
持分法による投資利益	232	166
その他	205	184
営業外収益合計	595	525
営業外費用		
支払利息	88	78
自己株式取得費用	5	0
為替差損	15	32
その他	41	14
営業外費用合計	150	124
経常利益	7,001	4,848
特別利益		
固定資産売却益	0	3
投資有価証券売却益	2	—
関係会社株式売却益	162	—
新株予約権戻入益	0	7
助成金収入	—	216
特別利益合計	166	228
特別損失		
固定資産売却損	4	0
固定資産除却損	14	0
その他	2	—
特別損失合計	21	0
税金等調整前四半期純利益	7,145	5,075
法人税、住民税及び事業税	2,247	1,620
法人税等調整額	△92	81
法人税等合計	2,155	1,701
四半期純利益	4,990	3,373
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△23	△73
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,013	3,446

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	4,990	3,373
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△126	427
繰延ヘッジ損益	△67	△12
為替換算調整勘定	△507	△299
退職給付に係る調整額	199	202
持分法適用会社に対する持分相当額	△18	3
その他の包括利益合計	△521	322
四半期包括利益	4,469	3,696
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,534	3,799
非支配株主に係る四半期包括利益	△65	△103

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年6月15日開催の取締役会決議に基づき、2020年6月30日に自己株式600,000株を消却しました。また、2020年12月11日開催の取締役会決議に基づき、自己株式76,700株を116百万円で取得しました。主にこれらの影響により、当第3四半期連結会計期間末における自己株式は633,402株、1,263百万円となりました。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間までの新型コロナウイルス感染症拡大の現状を考慮し、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、見直しを行いました。その結果、新型コロナウイルス感染症の影響による住宅及び非住宅市場の需要の減少は、2021年3月期以降も継続し、2023年3月期に需要が回復すると仮定し、繰延税金資産の回収可能性等について会計上の見積りを行っています。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	インテリア	エクステリア	海外	スペース クリエーション	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	89,942	12,229	14,804	2,634	—	119,610
セグメント間の内部 売上高又は振替高	554	2	—	37	△594	—
計	90,497	12,231	14,804	2,671	△594	119,610
セグメント利益又は 損失(△)	6,629	515	△693	94	10	6,556

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	インテリア	エクステリア	海外	スペース クリエーション	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	81,085	11,022	11,289	3,541	—	106,939
セグメント間の内部 売上高又は振替高	941	1	—	21	△964	—
計	82,027	11,024	11,289	3,562	△964	106,939
セグメント利益又は 損失(△)	4,698	346	△695	114	△16	4,447

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全てセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「インテリア」、「エクステリア」及び「海外」の3区分から、「インテリア」、「エクステリア」、「海外」及び「スペースクリエーション」の4区分に変更しております。

これは、中期経営計画(2020-2022)[D.C.2022]における「次世代事業の収益化」に向けた展開の一環として、内装仕上工事業を担う子会社フェアートン株式会社及び当社のスペースクリエーション事業部を「スペースクリエーション」セグメントとして区分したものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

(株式追加取得による完全子会社化)

当社は、2021年1月1日に当社連結子会社であるGoodrich Global Holdings Pte., Ltd. (以下、GGH社)の株式追加取得に係る契約を締結し、2021年1月15日に株式を取得したことにより完全子会社といたしました。

1. 株式取得の理由

当社グループは中期経営計画(2020-2022) [D.C. 2022] に基づき、「基幹事業のリソースに基づく次世代事業の収益化」を目標に掲げ、各国における強固な経営基盤の構築を進めております。この度、東南アジア市場で事業を展開するGGH社の意思決定の迅速化を通じ、より強固な経営体制・事業基盤を構築し、サンゲツグループ内の連携を強化しつつ、東南アジア市場における更なる成長を実現する事を目的に、GGH社を完全子会社化いたしました。

2. 異動する子会社(GGH社)の概要

(1) 名称	Goodrich Global Holdings Pte., Ltd.	
(2) 所在地	8 Changi South Lane #05-01 Goodrich Building, Singapore	
(3) 代表者の役職・氏名	Chief Executive Officer 古川 祥	
(4) 事業内容	内装材の販売	
(5) 資本金	11,004千 シンガポールドル	
(6) 設立年月日	2004年5月7日	
(7) 大株主及び持株比率	株式会社サンゲツ	70%
	Chan Chong Beng	30%

3. 株式取得の相手先の概要

(1) 氏名	Chan Chong Beng
(2) 住所	シンガポール

4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	7,332,080株 (議決権の数: 7,332,080個) (議決権所有割合: 70%)
(2) 取得株式数	3,142,320株 (議決権の数: 3,142,320個)
(3) 取得価額及び対価の種類	現金及び預金 12,500千 シンガポールドル
(4) 異動後の所有株式数	10,474,400株 (議決権の数: 10,474,400個) (議決権所有割合: 100%)

5. 日程

(1) 契約締結日	2021年1月1日
(2) 株式譲渡実行日	2021年1月15日